

北海道、岡山、広島に 緊急事態宣言

政府の新型コロナウイルス感染症対策本部（本部長＝菅義偉首相）は5月14日に会合を開き、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の区域変更を決めた。北海道、岡山県、広島県の3道県を新たに加えた。期間は5月16日から31日まで。これにより、緊急事態措置を実施すべき区域は、北海道、東京都、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、福岡県の9都道府県に拡大した。また、「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置に関する公示の全部を変更する公示」も決定。

新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置（重点措置）を実施すべき区域として群馬県、石川県、熊本県の3県を加えた。期間は、5月16日から6月13日まで。従来の埼玉県、千葉県、神奈川県、岐阜県、三重県、愛媛県、沖縄県の7県は5月31日まで。

また、これに合わせて「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」も一部改訂された。各区域の変更のほか、懸念される変異株（VOC）に「B.1.617（インドで最初に検出された変異株）」を加えた。

厚労省に対しては、ゲノム解析や国委託の民間検査機関でL452R変異株PCR検査を実施し、インドで最初に検出された変異株の全国的な監視体制を強化するよう求めた。

重症者、死亡者 さらに増加する可能性

厚生労働省の新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（座長＝脇田隆字・国立感染症研究所長）は5月12日に会合を開き、直近の感染状況等の分析と評価について、取りまとめた。全国の新規感染者数は、報告日別では、ほぼ上げ止まりから横ばいで、直近の1週間では人口10万人あたり約31人。発症日別でもほぼ上げ止まった。

全国的な感染拡大という状況ではなく、地域差が大きく見られ、急速に増えているところと、定常状態から減少傾向にあるところが混在しているとする一方、重症者数、死亡者数は増加が続いており、さらに増加する可能性が高いとした。

必要な対策としては、緊急事態宣言の延長に伴う取り組みにより、感染を着実に抑える必要があるとしたうえで、変異株（VOC）の感染性の高さも踏まえ、今後もタイムリーに対策を検討し、実施していくべきとした。また、岡山、広島、九州各県などでは新規感染者数が高い水準にあり、かつ急激に増加・継続している地域では、医療提供体制への負荷も既に大きくなりつつあり、必要な取り組みを速やかに実施・強化すべきとした。

■インド変異株でもサーベイランスを

変異株については、英国で最初に検出された変異株（B.1.1.7）の割合が西日本では概ね7割を超える水準で、従来株からほぼ置き換わったと推定。東京で6割程度、北海道で8割程度など他の地域でも置き換わりが進んでいるとした。

そのうえで、地域ごとの感染状況や疫学情報についての評価・分析を踏まえつつ、新たな変異株への対応も強化するため、ウイルスゲノムサーベイランスによる実態把握に重点をおいて対応する必要があると指摘。特に、新たにVOCと位置づけられたB.1.617（インドで最初に検出された変異株）については、ゲノムサーベイランスにより全国的な監視を行いつつ、L452R変異を検出するPCR検査を実施して監視体制を強化するとともに、積極的疫学調査等により感染拡大を可能な限り抑えていくことが必要とした。

医療情報③
全国知事会
公表

「緊急事態」追加、 菅首相の決断を評価

全国知事会（会長＝飯泉嘉門・徳島県知事）は5月14日、政府の対策本部決定を受けて「緊急事態措置区域およびまん延防止等重点措置区域の追加について」を公表した。このなかで、特に緊急事態措置区域の追加について、「基本的対処方針分科会の議論を踏まえ、菅総理のリーダーシップにより政府として即断即決をされたことに高く敬意を表したい」と評価。全国知事会として、「検査および積極的疫学調査の徹底、医療提供体制の強化、ワクチン接種の推進に総力を挙げていく決意である」とした。一方、政府に対しては、「感染力の強いウイルスとの熾烈な闘いと認識に立って、検査および積極的疫学調査など実効性ある感染防止対策の強化、現場の知事の意見を踏まえ『感染状況に即した』まん延防止等重点措置の適用、事業者支援の強化をはじめ、従前の枠組みを超えた強力な対策を断行していただきたい」と求めている。

医療情報④
政府
14日から発効

インドなど3カ国からの 入国を拒否

政府は5月12日付で「水際対策強化に係る新たな措置（12）」を示した。

インド、パキスタン、ネパールの3カ国に、日本への上陸申請日前14日以内に滞在歴のある在留資格保持者の再入国は、当分の間、特段の事情がない限り拒否するとした。

同月14日午前零時から開始する。ただし、5月13日までに再入国許可をもって出国した「永住者」「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」「定住者」の在留資格を有する者は、原則として「特段の事情がある」としている。

21年度調査の内容を了承 ～2022年度診療報酬改定の調査

中央社会保険医療協議会（中医協、会長＝小塩隆士・一橋大学経済研究所教授）は5月12日に総会を開き、2022年度診療報酬改定に向けて実施する、21年度調査の内容について、診療報酬基本問題小委員会から報告を受け、これを了承した。

■臨床検査4件を保険適用

この日の総会では、4件の臨床検査が保険適用された。いずれもE3（新項目）。
保険適用されたのは、以下の4件。

- ▼Leptin ELISA「コスミック」（血清中のレプチンの測定〈全身性脂肪萎縮症の診断の補助〉、コスミックコーポレーション）
- ▼VEGF ELISA キット「フジモト」（血清中の血管内皮増殖因子〔VEGF〕の測定〈クロウ・深瀬〔POEMS〕症候群の診断補助〉、藤本製薬）
- ▼イムノキャップ特異的IgG 鳥（血清中または血漿中の鳥抗原に対する特異的免疫グロブリンG〔IgG〕の測定〈鳥関連過敏性肺炎の診断補助〉、サーモフィッシャーダイアグノスティックス）
- ▼COVID-19 and InfluenzaA+B 抗原コンボテスト「ニチレイバイオ」（鼻咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液中のSARS-CoV-2抗原、A型インフルエンザウイルス抗原およびB型インフルエンザウイルス抗原の検出〈SARS-CoV-2感染またはインフルエンザウイルス感染の診断補助〉、ニチレイバイオサイエンス）

■13品目20成分を出来高に

この日の総会では、13品目20成分の高額薬剤について、DPC/PDPSの包括評価の対象外とすることを了承した。対象は以下のとおり。

- ▼ベネクレクタ錠 10mg、50mg、100mg（成分名：ベネトクラクス）
- ▼レンビマカプセル 4mg、10mg（成分名：レンバチニブメシル酸塩）
- ▼ビダーザ注射用 100mg（成分名：アザシチジン）
- ▼イスツリサ錠 1mg、5mg（成分名：オシロドロスタットリン酸塩）
- ▼ヴァイトラックピカプセル 25mg、100mg／ヴァイトラックピ内用液 20mg/mL（成分名：ラロトレクチニブ硫酸塩）
- ▼ペマジール錠 4.5mg（成分名：ペミガチニブ）

- ▼ケシンプタ皮下注 20mg ペン（成分名：オ ファツムマブ〈遺伝子組換え〉）
- ▼ポライビー点滴静注用 30mg、140mg（成分名：ポラツズマブベドチン〈遺伝子組換え〉）
- ▼レミトロ点滴静注用 300 μg（成分名：デニロイキンジフチトクス〈遺伝子組換え〉）
- ▼ダラキューロ配合皮下注（成分名：ダラツムマブ〈遺伝子組換え〉／ボルヒアルロニダーゼ アルファ〈遺伝子組換え〉）
- ▼ユプリズナ点滴静注 100mg（成分名：イネビリズマブ〈遺伝子組換え〉）
- ▼アリケイス吸入液 590mg（成分名：アミカシン硫酸塩）
- ▼ブレヤンジ静注（成分名：リソカブタゲン マラルユーセル）

医療情報⑥
厚生労働省
通知

SARS-CoV-2・インフル抗原 同時検出の取り扱いで通知

厚生労働省は5月12日付で、「検査料の点数の取り扱いについて」を、地方厚生（支）局と都道府県に宛てて通知した。昨年3月5日付通知「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」を改正し、5月12日から適用する。

改定内容は、別添1第2章第3部第1節第1款D012に以下を加える。

- ▼SARS-Co V-2・インフルエンザウイルス抗原同時検出は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の患者であることが疑われる者に対しCOVID-19の診断を目的として行った場合に限り、「25」マイコプラズマ抗原定性（免疫クロマト法）の所定点数4回分を合算した点数を準用して算定する。ただし、積極的疫学調査を目的として実施した場合は算定できない。診断を目的として実施した場合は、診断の確定までの間に、1回に限り算定する。ただし、発症後、本検査の結果が陰性であったものの、COVID-19以外の診断がつかない場合は、さらに1回に限り算定できる。検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。なお、同時検出を実施した場合、本区分「22」のインフルエンザウイルス抗原定性、SARS-CoV-2抗原検出については、別に算定できない。

医療情報⑦
厚生労働省
事務連絡

抗原検査キット2件を保険適用 ～「疑義解釈資料の送付について（その64）」

厚生労働省は5月12日付で、「疑義解釈資料の送付について（その64）」を、地方厚生（支）局と都道府県に宛てて事務連絡した。SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）抗原検出を実施

する際に用いるものとして5月12日付で薬事承認された「イムノアロー-SARS-CoV-2」(東洋紡)および「ビトロス SARS-CoV-2 抗原」(オーソ・クリニカル・ダイアグノスティック)について、同日から保険適用となるとした。

医療情報⑧
厚生労働省
発表

コロナワクチン、 ファイザーから追加供給

厚生労働省は5月14日、米国ファイザー社の新型コロナウイルスワクチンについて、今年第3四半期(7月~9月)に、約5000万回分(2500万人分)の追加供給を受ける契約を、ファイザー社と締結したと発表した。

同社のワクチンについてはこれまで、今年中に約1億4400万回分(7200万人分)の供給を受ける契約を結んでいる。今回の契約で、同社からは年内に合わせて1億9400万回分(9700万人分)のワクチンの供給を受けることになる。

医療情報⑨
日本医師会
定例記者会見

「国難に対し全力で責務果たす」 ~パーティー出席で日医・中川会長

日本医師会の中川俊男会長は5月12日の定例記者会見で、一部週刊誌で報道された自見はなこ参院議員の「次世代の医療政策を考える会」への出席について「全国で多くの皆様が我慢を続けてくださっているなかで、慎重に判断すればよかったと思っている」などとコメントした。中川会長は、会は、会場のホテル側と十分な事前協議を行い、感染症対策のガイドラインに基づいて開かれたとし、「徹底した検温、手指消毒、マスク着用、十分な距離の確保を講じ、食事の提供は一切なかった」とした。

そのうえで、慎重に判断すればよかったと述べ、「日本医師会長に求められる責務とは、医療提供体制の確保に最大限に努め、ワクチン接種を加速度的に進めること。これまで以上に国難に対して全力で責務を果たす」との意思を示した。

医療情報⑩
厚生労働省
事務連絡

6回接種のシリンジ・針の 組み合わせを事務連絡

厚生労働省は5月12日付で、「第5クールで配布するシリンジ・注射針について」を、都道府県に宛てて事務連絡した。

新型コロナウイルスワクチン「コミナティ」の高齢者向け第5クール（5月10日、17日の週配送分、V-SYS上「PF05」）以降、1バイアルから6回採取可能な組み合わせのシリンジ・注射針を配布するとしていたが、注射針・シリンジの組み合わせを、以下のとおり示した。

【希釈用シリンジおよび注射針】

▼シリンジ：BD ルアースリップシリンジ 3mL（希釈用、日本ベクトン・ディッキンソン）、針：フローマックス S25G *1 RBGA（ニプロ）

【接種用シリンジおよび注射針】

▼組み合わせ①

シリンジ：シリンジ 1ML ハリナシ ツベルクリン PP（ニプロ）、針：TSK ステリジェクト LDS/TSK STERiJECT LDS ニードル（タスク/栃木精工）

▼組み合わせ②

シリンジ：LT オール P シリンジ 1mL 滅菌済（大阪ケミカル）、針：TSK ステリジェクト LDS/TSK STERiJECT LDS ニードル（タスク/栃木精工）

▼組み合わせ③

シリンジ：SHINVA シリンジ 1mL（T.H.M アライアンス〈販売代理店/信彦佳景〉）、針：ディスポーザブルニードル（ミサワ医科工業）

▼組み合わせ④

シリンジ：DISPOVAN（ミサワ医科工業）、針：ディスポーザブル LDS 注射針（ミサワ医科工業）

医療情報⑪
厚生労働省
事務連絡

研修医のワクチン接種 について整理

厚生労働省は5月13日付で、「臨床研修を受けている医師による新型コロナウイルスワクチン接種について」を、都道府県に宛てて事務連絡した。

研修医が臨床研修の一環としてワクチン接種を行う場合の取り扱いを整理した。

ワクチン接種は、内科、地域医療等の必修分野の研修または保健・医療行政等の選択研修の一環として実施できると明記。

ワクチン接種会場に臨床研修指導医を配置することが望ましいとしたが、困難な場合には、オンライン指導等によって指導医と連絡が取れる体制を整備するなどとしている。

医療情報^⑫
政府
公表

コロナワクチン接種、 2回目まで終了は約 173 万人に

政府が公表した新型コロナウイルスワクチンの接種実績によると、医療従事者に対する5月14日の接種は、1回目が9万9493回、2回目が14万3385回の、合わせて24万2878回だった。2月17日からの合計では、1回目が346万7488回、2回目が166万3669回で、合わせると513万1157回となった。

高齢者等に対する接種では、5月16日には1回目が7万7078回、2回目が4717回の、合わせて8万1795回だった。4月12日からの合計では、1回目が91万3245回、2回目は6万8004回の、合わせて98万1249回だった。

医療情報^⑬
5月16日
現在

東京、大阪の COVID-19 死者、2000 人に迫る

厚生労働省のまとめによると、日本国内の新型コロナウイルスへの感染状況は、5月16日零時時点で、前日より6425人増えて、合わせて67万7988人となった。このうち、チャーター便による帰国者が15人、空港等検疫が2852人、国内事例が67万5121人。

国内の死者は、前日から98人増え、1万1463人となった。すでに退院している人は、前日より5274人増えて59万44人となった。入院治療を要する7万3562人のうち、人工呼吸器装着または集中治療室に入室している重症者は、前日から8人減って1223人だった。

5月14日までの国内（国立感染症研究所、検疫所、地方衛生研究所・保健所等）のPCR検査の実施件数は1362万1075件だった。5月16日零時時点での都道府県別の陽性者数は、東京都が15万1697人（死亡1951人）で最も多く、次いで大阪府の9万4155人（死亡1943人）、神奈川県が5万7577人（死亡854人）、埼玉県が4万1340人（死亡760人）、愛知県が3万9606人（死亡666人）などとなっている。

■インドの感染者、2500万人に迫る

厚労省のまとめ(図表)によると、5月12日15時時点の世界の新型コロナウイルスへの感染状況について、米国では感染者が3292万人あまりに達した。死者数は約58万6000人となった。インドでは、感染者が約2437万人に達し、死亡者は約26万6000人。

ブラジルでは感染者数が約1559万人、死者は約43万5000人。このほか感染者が100万人を超えているのは、フランス、トルコ、ロシア、英国、イタリアなどの、合わせて28の国と地域、10万人を超えているのは日本を含め、合わせて92の国と地域。感染者が1万人

を超えているのは148の国と地域。

ヨーロッパでは、フランスで感染者が約593万人に達したほか、ロシアでは約488万人、英国で約446万人となっている。イタリアで約415万人、スペインで約360万人、ドイツでも約360万人となった。さらに、ポーランドで約285万人、ウクライナで約221万人、チェコで約165万人、オランダで約162万人、ルーマニアで約107万人、スウェーデンで約104万人、ベルギーで103万人となった。中南米では、ブラジルのほか、アルゼンチンで約329万人、コロンビアで約310万人、メキシコで約238万人、ペルーで約188万人、チリで約128万人の感染が確認されている。アジアでは、インドのほかインドネシアで感染者が約174万人となったほか、フィリピンで約114万人となった。

パキスタンでは約87万人、バングラデシュで約78万人などとなっている。中東地域では、イランで感染者が約274万人となったほか、イラクでも約114万人となっている。アフリカ諸国では、南アフリカで感染者が約161万人、モロッコで約51万人となっている。

(図表)国別の感染者・死亡者の状況

国・地域	感染者	死亡者	国・地域	感染者	死亡者
米国	32,923,842	585,708	ルーマニア	1,071,334	29,485
インド	24,372,907	266,207	スウェーデン	1,037,126	14,275
ブラジル	15,586,534	434,715	ベルギー	1,030,071	24,686
フランス	5,925,071	107,696	パキスタン	874,751	19,467
トルコ	5,106,862	44,537	ポルトガル	841,848	17,006
ロシア	4,875,308	113,541	イスラエル	839,118	6,381
英国	4,464,663	127,937	ハンガリー	797,429	29,114
イタリア	4,153,374	124,063	バングラデシュ	779,796	12,124
スペイン	3,604,799	79,339	ヨルダン	722,754	9,203
ドイツ	3,595,872	86,100	セルビア	705,890	6,664
アルゼンチン	3,290,935	70,253	スイス	679,510	10,730
コロンビア	3,103,333	80,780	オーストリア	636,424	10,470
ポーランド	2,851,911	71,609	アラブ首長国連邦	544,931	1,629
イラン	2,739,875	76,633	レバノン	535,446	7,602
メキシコ	2,380,690	220,384	モロッコ	514,817	9,098
ウクライナ	2,206,627	49,881	マレーシア	466,330	1,866
ペルー	1,879,049	65,608	ネパール	447,704	4,856
インドネシア	1,736,670	47,967	サウジアラビア	432,269	7,147
チェコ	1,652,238	29,886	ブルガリア	414,041	17,250
オランダ	1,620,702	17,703	カザフスタン	412,236	3,394
南アフリカ	1,611,143	55,183	エクアドル	409,520	19,692
カナダ	1,331,480	24,884	スロバキア	387,420	12,203
チリ	1,280,252	27,734	ギリシア	375,831	11,365
フィリピン	1,138,187	19,051	ベラルーシ	374,714	2,691
イラク	1,136,917	15,930	パナマ	370,533	6,296